

新春対談



劇場は演劇を上演するだけでなく、何かと出会う「広場」として考えてみたいですね。白井晃さん

コミュニケーションなどの教育にも演劇の手法が有効ではないかと感じました。保坂区長



自分はどう観て、どう感じるか。自分の感覚を信じて楽しむことが大切だと思います。田中圭さん

俳優、そして演出家として第一線で活躍され、現在は世田谷パブリックシアターの芸術監督を務める白井晃さん。テレビドラマなどで人気を博し、ドラマはもちろん、映画、舞台など様々な場で活躍する俳優の田中圭さん。そしてプライベートでは舞台をよく観るといふ保坂区長。

新型コロナ禍後の文化・芸術の展望についてお話を伺いました。

区長 あけましておめでとうございます。令和6年の辰年を、皆さんどのように迎えているのでしょうか。さて今年の新春対談は、演出家で世田谷パブリックシアター芸術監督を務める白井晃さん、そしてテレビや映画でおなじみの俳優、田中圭さんをお招きしました。

白井さん・田中さん あけましておめでとうございます。今年もよろしくお願いします。

区長 さて早速ですが、白井さんは本日の対談会場でもある世田谷パブリックシアターの芸術監督をされています。舞台監督ではなく芸術監督、これはどのような役割なのでしょう。

白井さん ここにはパブリックシアターとシアターラムという2つの劇場がありますが、ここでどのような作品を上演していくか、また、どんな文化事業を発信していくか、スタッフとともに決めていくという役目を担っています。

区長 田中さんは演出家としての白井さんと、古いお付き合いだと伺っています。

田中さん 15年くらい前のことですが、このパブリックシアターで一緒に過ごさせていただいてからの付き合いです。僕にとっては人生2度目の舞台で、それからは白井さん演出の舞台に何度も立たせてもらっています。

白井さん 2008年に上演した『偶然の音楽』という作品でした。すごく素直な芝居をするよい青年だなと思って、それからは2年おきくらい一緒に作品を作らせてもらっています。そういった時間を過ごすことが長かったものだから、ちょっと息子のような気持ちも生まれて(笑)今日は久しぶりにこうして話ができるうれしいです。

公共劇場として、 舞台芸術をリードしてきた 世田谷パブリックシアター

区長 世田谷パブリックシアターができたのは1997年。それから四半世紀が経ちますが、改めて、世田谷パブリックシアターのような公共劇場・市民劇場とはどういうものなのでしょう。国や自治体が運営する劇場ではあるのですが、単に劇場を貸し出しているだけではないんですよね。

白井さん 公共劇場はどういうものであるべきか、正直、日本の公共劇場はどこもまだまだ模索中だと思います。私は、公共劇場とは、例えば市民生活の中に病院があったり公園があったり学校があったりするように、重要なインフラの一つだと思っています。地域に暮らす皆さんが文化や芸術的なものに触れ合う場所、そして心を解放できる場所として、公共劇場が存在していければよいと考えています。

区長 世田谷パブリックシアターが公共劇場としてこれからどこをめざし、どう存在するか。それはこれからの芸術監督としてのお仕事にも関わってくるのだと思います。役者さんの側として、田中さんは世田谷パブリックシアターをどのように感じていらっしゃいますか。

田中さん 僕は舞台の仕事では、この劇場に一番多く立たせていただいているのですが、演じる上でとてもやりやすいですし、観客の皆さんにとって観やすい劇場だと思います。とても愛着のある好きな場所です。スーパーマーケット

や駅の上に劇場があるんですよね。舞台の後、ご飯も食べに行きやすい。ここに暮らす人たちの生活の一部に溶け込むように存在しているということが、いいなと思います。それともう一つ、稽古場があることがうれしい。

白井さん 他の劇場では、稽古は別の場所で行って、リハーサルで初めて劇場に入るといのが一般的なのですが、ここは、創作環境とし



田中圭さん

1984年東京都生まれ。俳優。2000年に任天堂のCMでデビュー。2003年に話題作となったドラマ『WATER BOYS』で主人公の親友役を務め、注目を集める。これまで多数の映画やドラマ、舞台など話題作に出演するほか、バラエティ番組にも多数出演し、幅広く活躍中。

世田谷パブリックシアターで上演した作品にも多数出演し、今年5～6月に上演する『Medicine メディン』にも出演。

ヘアメイク/小林 雄美
スタイリスト/荒木 大輔